

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700109		
法人名	株式会社 イービーエーサービス		
事業所名	グループホーム いわむらの憩 (1F)		
所在地	岐阜県恵那市岩村町若宮730-2		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町村受理日	平成23年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191700109&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いわむらの憩」は古い城下町(岩村城)の一角にあり、地域の方々と触れ合いやすい環境にあります。季節ごとに、城下町ならではのイベントがあり、ご利用者様も地域の方々と共に楽しむことが出来ます。又商店街での買い物や、奉仕活動への参加地域住民の一員となる活動も積極的に行っています。「いわむらの憩」は地元で有名な料亭旅館水半跡地にあり、広い庭でのひと時を楽しんでいただくと共に、敷地内での花や野菜作りも行っています。又住み慣れた環境の下安心して頂けるようご要望に応じた支援をさせていただいている。ご利用者・ご家族様のご希望によりホームでの看取りを考えられる方には、協力医療機関との連携体制の下可能な限り対応させていただいております。職員が一丸となりサービスの向上を目指し、ご利用者様が、住み慣れた地域の中で、ホームの理念でもある「いつも明るく笑顔の絶えない安心出来るグループホーム」でありたいと願っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域の人々とふれあい、最期まで安心して自分らしく生活できるホームを目指し、熱意を持って取り組んでいる。終末期をホームで希望する家族へは、医療との連携を密にとり、支援体制を整えている。管理者・職員は、「どのように最期を迎えてもらうのか」を常に考え、死生観や生命の尊厳に向き合うことの意識を深め、そこから生きる知恵を学びながら専門性を高めている。そして、利用者の日々の生活、限りある時間を大切に、明るく笑顔の絶えない、安心のある暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護三大理念・介護の心得・ホーム理念接遇ルール・を朝礼にて唱和し共有している。又理念を基本とした実践に向け、日々意見交換・会議での話し合い等サービス向上の取り組みを常に行っている。	ホーム独自の理念、「いつも明るく笑顔の絶えない安心できる」を掲げている。理念は、朝礼や会議の機会に唱和し、共有している。利用者は、地域の中に溶け込み、笑顔で安心できる暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加し地域の方と触れ合える場を提供している。地域の奉仕作業にもご利用者様と共に参加し、地域の一員としての活動も行っている。又、地元中学生の職場体験の受け入れも行っている。	自治会員として、地域行事に参加したり、清掃活動も行っている。地元中学生の職場体験を受け入れたり、近隣の人が花壇作りと一緒に手伝うなど、地域の一員として交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の職場体験等で、直接触れ合い認知症の理解と対応方法を伝えている。又商店街での買い物や散歩時など地域との日常的に交流を深めることで認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の状況や取り組み等についての報告、行事などに参加していただき率直なご意見を頂いている。又地域の方から、どのようにして地域に入っていけるかなども意見を聞き実践に向けている。	会議は、概ね2ヶ月ごとに開催し、自治会長・民生委員・地域包括支援センター・家族が参加している。ホームの運営報告に対して意見を交わしている。地域交流をさらに深めることを検討し、実践に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が主催する介護サービス調整会などに参加し、情報交換して連携を図っている。市の担当者の方には、サービスに関する相談など意見を頂いて連絡を取っている。	市とは、生活保護者の受け入れ枠や若年認知症の受入、加算申請などで相談している。また、市の介護相談員が毎月訪れ、サービス改善を図っている。市主催の介護サービス調整会では、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人ではコンプライアンス委員会を設置し、積極的に身体拘束ゼロに向けての取り組みを行っている。又身体拘束・虐待防止委員会を設け法令は勿論、適切ではない行為等も正しく理解を深める取り組みをしている。日中玄関の施錠は行っていない。	身体拘束ゼロに向け、実践している。身体拘束・虐待防止の正しい理解について、定期的に学習している。玄関は施錠せず、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待のリスクや影響等の理解を深めている。又理念に上げられている「介護の心得5か条」を毎朝唱和し、周知徹底している。虐待が見逃されることが無いよう外部者による管理体制づくりも行っている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護委員会を定期的実施し、成年後見制度・プライバシー保護・人権等について学んでいる。成年後見制度を利用している方はみえないが、必要性がある方についての支援体制作りはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には、十分な説明をし、不安や疑問点が無いとその都度尋ね、理解・納得をして頂けるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置をし、いつでも意見・要望の受付が出来る様になっている。又本社へ直通の苦情・相談窓口も設けてあり早急に対応できる体制を整えている。介護相談員の受け入れや、外部者の方との交流で言い易い環境づくりをしている。	家族と面会時や電話で意見・要望を把握している。利用者からの意見等をさらに汲み取るため、市の介護相談員も、受け入れている。家族からは、「個人情報管理」に配慮してほしいとの意見があり、速やかに対応策を講じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人に直通の意見箱などを設置し、末端までの意見がトップに上がっていきやすいシステムになっており、直ぐ対応出来る体制を整えている。又個別の面談・全体会議・場面場面での意見や要望を聞き対応している。	管理者は、月例会議で職員から意見・提案を聞く機会としている。事故防止対策やケアの困難事例を話し合っている。ストレスなどの悩みには、個別面談で、よく話し合い、職場環境づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、実績に合わせての報酬や、スキルアップでの手当など、やりがいをもって働ける環境・条件に努めている。又職員に向けて職場環境改善アンケートを実施し環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個人の力量にあった研修や資格取得に向けての情報提供及び参加を促して能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流を図り、相談・助言を頂いたり、市での意見交換会に出席し情報を得サービス向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い思いが出やすい環境を作り、共感的な態度で、ご利用者様が求めていることや、不安、本人の置かれている状況等を十分に把握し、少しでも信頼関係が築けるよう勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時間を十分にとり、ご家族様の立場に立ち傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。ご利用者様とは別に面談をし、思いが言い易い環境づくりもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時ご本人・家族の必要としている事や、現状を把握した支援が出来る様努めている。又地域のケアマネージャーとも密に連携をとり今までの現状把握にも協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを知ること努め、昔からしてきたことや、出来ることを、教えていただける場面を多く作り、感謝の言葉をかけるなど、一方的ではない関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様・ご家族様の思いを踏まえて、ご利用者様の現状・気持ち言葉を1ヶ月1回通信に載せたりその都度何かあれば連絡し、ご家族様でしかできないことは、協力して頂く様に、連携をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に気軽に電話が掛けられる環境を整えたり、近所の方やお友達が、気軽に来ていただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。	親戚や近所の友達・趣味の仲間が気軽に訪れている。来訪者には、ゆっくり過ごしてもらような雰囲気作りを心掛けている。馴染みの喫茶店、商店、薬局等へは、職員と共に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係の把握に努め、より良い関係を築けるように職員が間に入り支援している。又廊下にソファを置き気の合った方向同士が他者を気にすることなく過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係は難しいが、契約終了後も出来ることがあれば相談・支援の協力の意思をご家族様に伝えるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、思いが表出しやすい環境を整え、受け止めるよう努めている。又、1ヶ月に1回モニタリングを行い本人の視点に立って意見を出し合い話し合っている。	日々の暮らしの中で、一人ひとりの思いを受け止めている。利用以前の暮らしを聞くことで、意外な側面も発見している。思いや意向は、本人の気持ちを受け止めながら、日々のケアに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様との会話やご家族様、入所前のケアマネジャー・知人の方からの言葉を元にこれまでの経過等の把握に努め細かな情報をアセスメントするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや状態を職員が共通理解できるようケア記録や申し送り等で共有し、その時の心身の状況把握など常に情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人家族の方から希望、要望思いを聞き介護計画に取り入れるよう努めている。又1ヶ月1回のモニタリングを繰り返しながら状況に応じて見直し経過に応じた対応をしている。	本人・家族や関係者で話し合い、介護計画を作成している。毎月、利用者の状況を全職員で話し合い、気づきやアイデアを計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援が出来るかの記録や日々の様子や気づきなど個別記録に記入し、申し送り等で、情報を共有しながら、ケア会議等での意見交換し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応又は入院中の対応は、本人家族の希望を踏まえ出来る限り希望に沿った柔軟な対応をしている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方・子育て支援の親子の訪問をして頂き地域の一員としての取り組みをしている。又理美容の訪問で散髪などの支援も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際は同意の下ホーム提携医に変更しているが、ご家族ご本人のご希望があれば、かかりつけ医での受診をし、場合によっては通院の支援をしている。受診の際情報提供書にて密な連携をし、適切な医療が受けられるようにしている。	契約時に、本人・家族の納得の上、協力医をかかりつけ医としている。月に2回、協力医の往診があり、適切な医療を支援している。看護師が、服薬の効果を観察し、協力医との連携を密にしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常にご利用者の健康管理や相談・助言を行っている。又月に2回は医療連携会議での医師・他の看護師からの助言を受け適切な対応が出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中1週間1回から2回来院し医療機関の医師・看護師・相談員との情報交換をし、早期退院が出来る様に努めている。又医師からご家族様への状態説明にも同席をし連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時や段階的にご本人やご家族様の意向をふまえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるようその都度意思確認をし、記録に残し全職員で共有するよう努めている。又意思確認書を作成し、ご家族の意向を文書にて確認している。	重度化・終末期の方針を本人・家族に説明し、同意書を交わしている。段階的に、関係者で話し合い、方針を共有している。再々、家族の意向を確認し、ホームで最期を迎えられる体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士による救命救急講習の实地や看護師による救急時の対応等定期的に勉強会を実施し、適切な対応が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施や災害時の訓練等勉強会など定期的に行い職員の意識を高める取り組みをしている。又災害時の備蓄品の確保もしている。	年2回、消防署の指導の下、災害訓練を実施している。避難誘導、消火器の使用方法、救急救命など、訓練している。備蓄品等も確保している。	地域との協力体制作りに取り組んでいるものの、具体的な話し合いは進んでいない。引き続き、運営推進会議等でも働きかけ、近隣関係者との合意形成に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止委員会・権利擁護委員会等ご利用者様の誇りや自尊心を侵さない対応を勉強し、日々の介護を振り返りながら、より良い対応が出来る様に努めている。	利用者の嫌がることには触れないよう、優しい言葉かけに配慮している。トイレ誘導や入浴の場面では、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに意思を尊重した言葉掛けをし、自己決定が出来るように努めている。又意思表示の困難な方については、筆談したり、表情を汲み取り本人に沿うよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて個々の思いを優先して、本人のやりたいことや行きたいところ等、希望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替時には本人が自己決定が出来るよう、意思を確認しながら支援している。外出時にはお化粧をしたりお洒落したりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは毎日ご利用者様に書いていただきながら献立について会話をしたり、ご利用者様にに応じて食事の準備を手伝ってもらったり、食器の後片付けを職員と一緒にやっている。	食が進むように、食前に献立の中味を分かり易く説明している。職員と一緒に同じ食事を摂り、準備や片付けも行っている。誕生会には、ほう葉ずし、おはぎ、からすみなど、懐かしい料理づくりを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も一人ひとりに合わせて出し、栄養士による献立表にて食事を作っている。食事量、水分量は一人ひとりチェックしている。ご利用者様にに応じてミキサー食等対応している。又食事量の少ない方には必要に応じて栄養補助ドリンク等を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が認識し、自己にて出来る方は声掛けし見守り出来ない方には、一部介助を行っている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらさりげなく声掛け誘導を行いトイレでの排泄が出来る様自立支援を行っている。	排泄チェック表を基に、個々の排泄リズムを把握している。自分でトイレに行ける人には、見守りで対応している。他の人は、こまめに声をかけ、トイレで排泄ができるように自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には牛乳や冷たい水を飲んで頂いたり、午前・午後の体操や散歩の運動も心がけ、自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は安全安楽に入浴して頂く為、職員の多い時間帯になっている。ご利用者様のその日の気分やタイミングに合わせてながら個々に沿った入浴できるよう支援している。	週に2回の入浴日を定めているが、汚れた場合や、希望があれば柔軟に対応している。入浴を拒む人はなく、ゆったり時間を掛け、介助者との楽しい会話の場になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は御利用者様の希望や体調に合わせて、休息できるよう環境整備をしている。就寝前には一緒にお茶を飲んだり、時には、ベットに付き添う等安心して就寝できる配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。薬の変更や、状態の変化がある場合には、きちんと記録に残し、申し送り等で連携を図っている。服用時には職員2名にて確認しながらおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴など把握し一人ひとりの出来る事を最大限に生かし主役体験が出来る支援をしている。又本人の希望により買い物や外出支援をし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って喫茶店に出掛けたり、商店街へ買い物に出掛けるなどの支援をしている。又、外出を好まれない方には、庭にてお茶会を楽しんでいただいている。	近所の神社へは、清掃をかねて毎日参拝に出かけている。町並みを散策したり、喫茶店、商店での買い物に、職員が同行している。四季を通じて、花見やぶどう狩りなど、多方面へ出かける支援をしている。	

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布や現金等は本人・家族の同意のもと金庫に預かっている。又本人の要求に応じて買い物時には財布を渡し自分で支払いをしている。小遣い帳をつけ現金管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者様には、充電の管理や発信の援助をし、本人の希望時に連絡が取れるよう支援している。又季節ごとには、ご家族宛に手紙を書いて送る支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけをしたり、花を生けたり、地域のお祭りのポスターなどを貼ったりし、季節を感じていただけるように支援している。又、行事等の写真を貼り、その時のことを振り返っていただいている。	玄関・居間や廊下には、季節の花を飾っている。また、利用者手づくりの、ぬり絵、貼り絵、俳句、写経など、ほど良く配置している。また、利用者の暮らしぶりが分かる写真が掲示されているなど、共有スペースは居心地良い空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	違うユニットに行き、気の合った方とお茶を一緒に飲んだり、おやつを頂いたり、ユニットごとの行き来も自由にできるよう支援している。廊下にソファを置き、自由にお話をして頂ける空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用する事での利点などを家族に説明をし、協力を得て家から馴染みの物を持ちこんでいただくよう支援している。	居室には、馴染みのタンス、テレビ、ぬいぐるみ、位牌などが持ち込まれている。家族の写真や、手づくり作品も飾り、安心して過ごせる居室づくりを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に応じて家具や、ポータブルの配置を変えたり、張り紙等をしてして環境整備に努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700109		
法人名	株式会社 イービーエーサービス		
事業所名	グループホーム いわむらの憩 (2F)		
所在地	岐阜県恵那市岩村町若宮730-2		
自己評価作成日	平成23年10月30日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年11月15日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護三大理念・介護の心得・ホーム理念接遇ルール・を朝礼にて唱和し共有している。又理念を基本とした実践に向け、日々意見交換・会議での話し合い等サービス向上の取り組みを常に行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りに参加し地域の方と触れ合える場を提供している。地域の奉仕作業にもご利用者様と共に参加し、地域の一員としての活動も行っている。又、地元中学生の職場体験の受け入れも行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元中学生の職場体験等で、直接触れ合い認知症の理解と対応方法を伝えている。又商店街での買い物や散歩時など地域との日常的に交流を深めることで認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者様の状況や取り組み等についての報告、行事などに参加していただき率直なご意見を頂いている。又地域の方から、どのようにして地域に入っていけるかなども意見を聞き実践に向けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が主催する介護サービス調整会などに参加し、情報交換して連携を図っている。市の担当者の方には、サービスに関する相談など意見を頂いて連絡を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人ではコンプライアンス委員会を設置し、積極的に身体拘束ゼロに向けての取り組みを行っている。又身体拘束・虐待防止委員会を設け法令は勿論、適切ではない行為等も正しく理解を深める取り組みをしている。日中玄関の施錠は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、虐待のリスクや影響等の理解を深めている。又理念に上げられている「介護の心得5か条」を毎朝唱和し、周知徹底している。虐待が見逃されることのないよう外部者による管理体制づくりも行っている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護委員会を定期的実施し、成年後見制度・プライバシー保護・人権等について学んでいる。成年後見制度を利用している方はみえないが、必要性がある方についての支援体制作りはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には、十分な説明をし、不安や疑問点が無いとその都度尋ね、理解・納得をして頂けるよう説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置をし、いつでも意見・要望の受付が出来る様になっている。又本社へ直通の苦情・相談窓口も設けてあり早急に対応できる体制を整えている。介護相談員の受け入れや、外部者の方との交流で言い易い環境づくりをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人に直通の意見箱などを設置し、末端までの意見がトップに上がっていけるようなシステムになっており、直ぐ対応出来る体制を整えている。又個別の面談・全体会議・場面場面での意見や要望を聞き対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し、実績に合わせての報酬や、スキルアップでの手当など、やりがいをもって働ける環境・条件に努めている。又職員に向けて職場環境改善アンケートを実施し環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個人の力量にあった研修や資格取得に向けての情報提供及び参加を促して能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流を図り、相談・助言を頂いたり、市での意見交換会に出席し情報を得サービス向上に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を必ず行い思いが出易い環境を作り、共感的な態度で、ご利用者様が求めていることや、不安、本人の置かれている状況等を十分に把握し、少しでも信頼関係が築けるよう勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の時間を十分にとり、ご家族様の立場に立ち傾聴し、信頼関係を築けるよう努めている。ご利用者様とは別に面談をし、思いが言い易い環境づくりもしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時ご本人・家族の必要としている事や、現状を把握した支援が出来る様努めている。又地域のケアマネージャーとも密に連携をとり今までの現状把握にも協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを知ること努め、昔からしてきたことや、出来ることを、教えていただける場面を多く作り、感謝の言葉をかけるなど、一方的ではない関係を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様・ご家族様の思いを踏まえて、ご利用者様の現状・気持ち言葉を1ヶ月1回通信に載せたりその都度何かあれば連絡し、ご家族様でしかできないことは、協力して頂く様に、連携をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に気軽に電話が掛けられる環境を整えたり、近所の方やお友達が、気軽に来ていただけるような声掛けや、雰囲気作りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係の把握に努め、より良い関係を築けるように職員が間に入り支援している。又廊下にソファを置き気の合った方同士が他者を気にすることなく過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関係は難しいが、契約終了後も出来ることあれば相談・支援の協力の意思をご家族様に伝えるなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから、思いが表出しやすい環境を整え、受け止めるよう努めている。又、1ヶ月に1回モニタリングを行いご利用者様の視点に立って意見を出し合い話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様との会話やご家族様、入所前のケアマネジャー・知人の方からの言葉を元にこれまでの経過等の把握に努め細かな情報をアセスメントするよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや状態を職員が共通理解できるようケア記録や申し送り等で共有し、その時の心身の状況把握など常に情報交換を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、本人家族の方から希望、要望思いを聞き介護計画に取り入れるよう努めている。又1ヶ月1回のモニタリングを繰り返しながら状況に応じて見直し経過に応じた対応をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った支援が出来ているかの記録や日々の様子や気づきなど個別記録に記入し、申し送り等で、情報を共有しながら、ケア会議等での意見交換し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や緊急時対応又は入院中の対応は、本人家族の希望を踏まえ出来る限り希望に沿った柔軟な対応をしている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方・子育て支援の親子の訪問をして頂き地域の一員としての取り組みをしている。又理美容の訪問で散髪などの支援も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際は同意の下ホーム提携医に変更しているが、ご家族ご本人のご希望があれば、かかりつけ医での受診をし、場合によっては通院の支援をしている。受診の際情報提供書にて密な連携をし、適切な医療が受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、常にご利用者の健康管理や相談・助言を行っている。又月に2回は医療連携会議での医師・他の看護師からの助言を受け適切な対応が出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、入院中1週間1回から2回来院し医療機関の医師・看護師・相談員との情報交換をし、早期退院が出来る様に努めている。又医師からご家族様への状態説明にも同席をし連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時や段階的にご本人やご家族様の意向をふまえ、医師・薬剤師・職員が連携を取り、納得した最期を迎えられるようその都度意思確認をし、記録に残し全職員で共有するよう努めている。又意思確認書を作成し、ご家族の意向を文書にて確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命士による救命救急講習の实地や看護師による救急時の対応等定期的に勉強会を実施し、適切な対応が出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練の実施や災害時の訓練等勉強会など定期的に行い職員の意識を高める取り組みをしている。又災害時の備蓄品の確保もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止委員会・権利擁護委員会等ご利用者様の誇りや自尊心を侵さない対応を勉強し、日々の介護を振り返りながら、より良い対応が出来る様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに意思を尊重した言葉掛けをし、自己決定が出来るように努めている。又意思表示の困難な方については、筆談したり、表情を汲み取り本人に沿うよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて個々の思いを優先して、本人のやりたいことや行きたいところ等、希望に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替時には本人が自己決定が出来るよう、意思を確認しながら支援している。外出時にはお化粧をしたりお洒落したりできるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時にはメニューを変更してご利用者様の好むものに変えて提供している。又ご利用者様に依って食事の準備をしたり、食器の後片付けをしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も一人ひとりに合わせて出し、栄養士による献立表にて食事を作っている。食事量、水分量は一人ひとりチェックしている。ご利用者様に依ってミキサー食等対応している。又食事量の少ない方には必要に応じて栄養補助ドリンク等を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性を全職員が認識し、自己にて出来る方は声掛けし見守り、出来ない方には一部介助を行っている。又最終的に職員が磨き残し等の確認している。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらさりげなく声掛け誘導を行いトイレでの排泄が出来る様自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には牛乳や冷たい水を飲んで頂いたり、午前・午後の体操や散歩の運動も心がけ、自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は安全安楽に入浴して頂く為、職員の多い時間帯になっている。ご利用者様のその日の気分やタイミングに合わせてながら個々に沿った入浴できるよう支援している。合わない時には無理せず日にちを替えて支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご利用者様の希望や体調に合わせ、休息できるよう環境整備をしている。就寝前には一緒にお茶を飲んだり、時には、ベットに付き添う等安心して就寝できる配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し、薬の目的や副作用等把握出来るよう努力している。薬の変更や、状態の変化がある場合には、きちんと記録に残し、申し送り等で連携を図っている。服用時には職員2名にて確認しながらおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴など把握し一人ひとりの出来る事を最大限に生かし主役体験が出来る支援をしている。又本人の希望により買い物や外出支援をし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って喫茶店に出掛けたり、商店街へ買い物に出掛けるなどの支援をしている。又、外出を好まれない方には、庭にてお茶会を楽しんでいただいている。		

岐阜県 グループホームいわむらの憩

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布や現金等は本人・家族の同意のもと金庫に預かっている。又本人の要求に応じて買い物時には財布を渡し自分で支払いをしている。本人持ちの方は定期的に職員が確認をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちのご利用者様には、充電の管理や発信の援助をし、本人の希望時に連絡が取れるよう支援している。又連絡が取りたいとの訴えがある方には、様子をみながら支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾りつけをしたり、花を生けたり、地域のお祭りのポスターなどを貼ったりし、季節を感じていただけるように支援している。又、行事等の写真を貼り、その時のことを振り返っていただいている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	違うユニットに行き、気の合った方とお茶を一緒に飲んだり、おやつを頂いたり、ユニットごとの行き来も自由にできるよう支援している。廊下にソファを置き、自由にお話をして頂ける空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を使用する事での利点などを家族に説明をし、協力を得て家から馴染みの物を持ちこんでいただくよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、解かる事を把握し、状態に応じて家具や、ポータブルの配置を変えたり、張り紙等をしてして環境整備に努めている。		